

三中校長だより 保護者地域の皆さんへ

令和7年度 第13号 R8.3.31(火)



藤井寺市立第三中学校

校長 奥雅美

「令和7年度修了を迎えて」

3年生が卒業し、1・2年生だけの学校生活が始まりました。生徒たちの表情にはどこか頼もしさが感じられ、学年末のスポーツ大会やダンスマッチを楽しむ姿にも、この一年の大きな成長が見て取れました。

いよいよ、次の学年へ進級するための準備期間です。今年度は3学期に三者懇談を実施し、この一年の振り返りと次年度の過ごし方について確認させていただきました。お忙しい中、お時間を調整いただき、誠にありがとうございました。少しでも安心して新学年を迎えられる一助となれば幸いです。

修了式では、次年度に向けて生徒たちに「2つの宿題」を出しました。

1つ目：未来の自分を想像し、今すべきことを考える

思春期という多感な時期、迷いがあって当然です。遠い将来が描けなくても、1年後、2年後の自分をイメージしてみてください。「未来の自分」のために今、何ができるかを真剣に考えてほしいと願っています。

2つ目：自分の思いを「言葉」にして伝える練習をする

以前もお伝えしましたが、コミュニケーションは一筋縄ではいきません。言葉を尽くしても100%伝わることは稀です。しかし、だからこそ言葉にする努力が必要です。「以心伝心」は偶然起きるものではなく、日頃の密な対話があって初めて成立するものです。

中学時代は、大人が手を出しすぎてもいけません。決して放っておいてもいけない、非常に難しい時期です。だからこそ、私たち大人の「見守る目」と「適切な判断」が欠かせません。もし判断に迷われたときは、いつでも学校にご相談ください。これからも、共にお子さんの成長を支えていきましょう。

「感謝」

保護者の皆さまから時々いただく「校長だより」の感想は私のエネルギーの源でした。5年間ご支援いただき、ありがとうございました。そして、これからも三中をよろしく願っています。

「春休み美化活動」3月26日(木)

毎年恒例となっている春休みの美化活動が行われました。当日は各部活動の生徒や卒業生、そしてPTA、地域の皆様にもお集まりいただき、校舎の隅々まで磨き上げることができました。

おかげさまで、靴箱やトイレもピカピカになり、新年度を迎える準備が万全に整いました。校舎だけでなく、教室や教科書などの備えも着々と進んでおり、こうした一つひとつの活動に、まさに「みんなで創る第三中学校」という一体感を感じています。

新しい学期が始まるのが、今からとても楽しみです。ご協力いただいた皆様、お忙しい中、本当にありがとうございました。

「幸せの種をまく」

皆さんが「幸せ」を感じるのは、どんなときでしょうか。

私にとっての日々の幸せは、例えば「ちょうどいいタイミングで信号が青に変わった」「卒業生から試合で入賞したと報告があった」「いつもこちらから挨拶していた子が、今日は向こうから先に挨拶してくれた」といった、ささやかな瞬間です。

人によっては「そんな小さなことで？」と思うかもしれませんが、こうした小さなことに幸せを感じられる感性を持っていると、次々と「幸せの種」が見つかるようになり、その喜びは周囲へと伝播(でんぱ)していきます。

幸せには、いくつかの種類があるように思います。先ほどの「信号」は偶然の幸運ですが、あとの二つは、これまで自分が積み重ねてきたことへの「ご褒美」ではないでしょうか。

見返りや他人の評価を求めるのではなく、誰かのために、あるいは自分自身が納得できるよう誠実に行動すること。それは、自分の人生に「幸せの種」をまいているのと同じことだと思えます。

書家の相田みつをさんの言葉に「しあわせはいつもじぶんのころがきめる」という一節があります。また最近では、一時的な喜びだけでなく、心身ともに満たされた状態が続く「Well-being(ウェルビーイング)」という言葉も注目されています。

持続的な幸福感を味わうためには、日々の何気ない景色の中から喜びを見つけ出す「幸せの感度」を上げることが、何より大切なかもしれません。

新学期からも、誰もが優しい気持ちで、穏やかな幸せを感じて過ごせる学校でありたいと願っています。